

ふじさん

fujijoho group monthly magazine

平成29年指針

富士情報

賢守智略

[今月のひとこと]

子宮頸がんワクチン

- 富士山マラソンで12回目の完走一丸久・宮下常務
- 情報処理技術者試験合格者
- 本社2階を完全禁煙に



冬の富士山

写真提供：富士河口湖町 観光課



今月のひとこと

子宮頸がんワクチン

社長 渡辺直企

去る11月30日に、科学誌『ネイチャー』などが主催するジョン・マドックス賞を医師・ジャーナリストの村中璃子さんが受賞しました。村中さんは子宮頸がん予防ワクチンの安全性を検証するなどの活動が評価されました。

日本では、2013年4月に小学6年生から高校1年生の女子を対象に子宮頸がん予防ワクチンを公費で打てる定期接種となりました。しかし、注射後に痛みやけいれんなど多様な症状を訴える声が相次ぎ、同年6月に国は積極的に国民に勧めることを停止しました。報道でも大きく取り上げられ、これらの影響で2010年度の13～16歳のワクチン接種率はいずれも70%でしたが、2013年度の12歳、13歳においては接種率はそれぞれ1%と4%にとどまっています。

子宮頸がんの日本での発症数は年間に約1万人で、約3,000人がこのがんによって命を落としています。発症のピークが30代後半であり、本人、家族共に大きな負担となります。2016年の交通事故死者が3904人であることを考慮しても、社会にとって大きな課題であると思います。厚生労働省は定期接種化される前から副作用に関する調査を行っており、500万回接種し副作用の報告が779人(0.02%)、重篤66人(0.001%) 死亡1人(0.00002%)と発表しています。子宮頸がんの罹患率は83名に一人で約1%、ワクチンを接種すると罹患率を半減する効果が期待できます。厚生労働省によりますと、過去に接種した300万人に対しては13,000人～20,000人患者を減らし、3,600人～5,600人の死者を減らせたとの試算結果があります。重い副作用を患う方は非常に気の毒だと思います。ただし多くの罹患、死者を防ぐのか稀な副作用を皆で受け入れるのかは議論が必要な課題です。定期接種化に当たっては上記のデータを元に判断したのだと思いますが、方針転換する際に議論がどれだけあったのか非常に疑問を持ちました。トロッコ問題の様に行動せず多くの人を犠牲にするのか、多くの命を助ける代わりに自ら行動し少数の罪のない命を犠牲にするのか。非常に難しい問題です。

その後厚生労働省の研究班が2016年に発表した調査結果ではワクチンの接種歴がない12～18歳の女性の場合、人口10万人当たり20.4人(0.02%)の頻度でも似たような症状が表れていることが分かりました。一方、接種歴のある女性では、同27.8人の頻度だったとのことでした。

2015年12月、世界保健機関(WHO)の諮問機関であるGACVS(ワクチンの安全性に関する諮問委員会)が子宮頸がんワクチンに関する新たな安全声明を発表し、その中で日本を名指して「日本は子宮頸がんを予防する機会が奪われている」と批判しています。2016年4月18日、日本小児科学会など15団体は「体制は整った」と接種推奨を発表し、同年8月29日、日本産科婦人科学会は「予防接種は受けるべき」と発表しました。定期接種開始への専門家、行政の客観的判断は出ています。あとは政治家、そして報道がどのように対応していくのかよく見ていかなければなりません。

2013年の副作用の報道は非常に印象に残り、私も今回の報道を見るまで大きな副作用の問題が大きい印象を持っていました。副作用の症状があるのは事実ですが、ワクチン接種との因果関係、真理は明らかではありません。我々は理解しやすい事実に影響を受けやすいことを理解しておく必要があります。

村中さんの受賞を報道したのは12月2日時点で北海道新聞と産経新聞のみだったとのことでした。

富士山マラソン 12回目の完走!

—丸久・宮下啓三常務—

11月26日に「第6回富士山マラソン」が河口湖と西湖の湖畔をまわる42.195kmのフルマラソンと10kmのチャリティーファンランが行われ、9200人（海外からは40ヵ国・1500人）が参加し開催されました。2年ぶりにフルマラソン出場した丸久の宮下啓三常務が見事に完走、これで以前に行われていた「河口湖日刊スポーツマラソン」を含めると完走は12回目になりました。

スタートした午前9時の気温は6.3℃、風は冷たかったものの晴天で、富士山もくっきり見えて絶好のコンディションになりました。

コース途中には1キロで100メートルを駆け登る坂が待ち受ける難所もあり、約8000人が参加したフルマラソンでは6時間の制限時間内の完走者は7001人でした。

宮下常務の記録は自己記録には及ばなかった



ものの、総合順位は3193位と半分より早く、55～59歳男子では420人中の194位という素晴らしい成績でした。

「2年ぶりの挑戦でしたがなんとか完走できました。もちろん来年も走ります。出るからには自己記録の更新をねらいます」とますます元気な宮下常務の感想ででした。

○情報処理技術者試験合格者

10月15日に行われた平成29年度秋期情報処理技術者試験のうち基本情報技術者試験の結果が発表され、下記の2人が合格しました。

長谷 孝明さん（システム・第3グループ）

高橋 昌裕さん（システム・第5グループ）

○本社2階を完全禁煙に

職場の「受動喫煙防止対策」が事業者の努力義務になるなど、企業や地域でさまざまな対策が進められています。本社の2階はこれまでは階段の踊り場に喫煙スペースを設けていましたが、1月からはこれを廃止し、2階のフロアのすべてを禁煙にします。現在喫煙者はほとんどいませんが、ご協力をお願いいたします。

今月の表紙

～冬の富士山～

今年は先月21日に農鳥が出現したように、富士山の雪が例年に比べて少なく、東京からは白く見えても24日に降るまでは、北西側から見る富士山は降った雪が風に飛ばされて岩肌が露出していました。今年は寒さが厳しく、21日にマイナス7.7℃を記録したのをはじめ12月にマイナス5℃以下の日がすでに10日もありました。寒い冬ですが、澄み切った冬の夜空を彩る「河口湖冬花火」が1月13日から2月18日までの土曜・日曜と2月23日（富士山の日）の計13回行われます。「西湖樹氷まつり」などもありますので、防寒対策をしてお出かけください。

なお、表紙の写真は2018年も引き続き富士河口湖町観光課のご協力により提供いただきます。

獲得しよう！“MVP”



今年も丸久は「プロ代理店・MVP賞」の獲得に向けて一丸となって取り組んでいます。3月31日まで富士情報グループ社員の「保険獲得キャンペーン」を行いますので、皆さまのご協力をお願いいたします。次のような方がおられましたら是非ご紹介ください。

- ・生命保険の見直しを検討中の方
- ・友人、知人で戸建てを検討中の方
- ・自動車購入を検討中の方
- ・自動車保険の見直しを検討中の方



丸 久

電話：0555-24-2341 メール：marukyu@ag.sjnk.co.jp



私の趣味
No. 459

ストレス解消

荒 井 昇

私は年間2回～3回のゴルフを20数年続けてきましたが、2年前に2人の子供が東京の大学に入学し家を離れたのを機に、会社の同僚に誘われてあるゴルフ場のプレミアム会員になり、少ない小遣いの中で月1回のゴルフを楽しんでおります。ここ2年間で数十回ラウンドをし、数少ないですがいい時もありました。しかし殆どが「あの場面は、ああすればよかったな」とか「もっと落ち着いてやればよかったのに」など反省ばかり、なかなか上達せずストレスが解消できない日々が続いています。自分で分析すると一番の要因は、「ここで一発逆転」、「木と木の間を狙って、ミスを一打で帳消し」など実力以上のスコアを期待する心の奥に潜んでいる自分の欲望であります。一打目がOBでも二打目は力が抜けてナイスショット、「最初にそうやって打てば・・・」分かっているのですがなかなか簡単にはいきません。今回「ふじさん」に掲載する機会を頂く中で、改めて自分の実力通りの目標が一番であると痛感、私の場合「100」以下でラウンドできれば満足とします。



今、私の一番のストレス解消方法は、ゴルフのラウンドではなく、休日にプレミアム会員となったゴルフ場に行き、広大な富士山を望みながら練習（パター、アプローチ等）をするのが楽しく、今では仕事を忘れるストレス解消の絶好の機会となっています。

先月、毎月恒例となっている「同級生ゴルフ大会」が秋晴れの中開催され、今年は16名が参加しました。スコアはいつも通りでありましたが、ゴルフを通じて中学生時代の昔話に花が咲き、ストレスなく楽しくラウンドをすることができました。やはり趣味は楽しむことが大事です。

今後、「練習」だけでなく「楽しいラウンド」でストレス解消を目標に、これからも楽しいゴルフをいい仲間と続けていきたいと思えます。

(都留信用組合 上吉田支店 支店長)